「第４次アクションプラン 全国の農業高校の新戦略グローカル・アグリハイスクール宣言PartⅡ」

令和⑤・６・７・８ 年度 福岡県立農業高校スクールアクションプラン「糸島農業高等学校 版」

2024/2/6

令和４年度 福岡県農業･水産高等学校長会 第１研究委員会作成

第４次アクションプラン 全国の農業高校の新戦略 グローカル・アグリハイスクール宣言PartⅡ				自校のスクールアクションプラン					
農業高校のミッション（目指す学校像）	行動計画（目指す学校像の具現化に向けて）		キーワード（該当ワードを○で囲む）	学科名	本年度重点取組	具体的方策（５W１H明記、数値目標奨励(年度末ABCDE評価の根拠)）	SDGs目標NO.	評価(ABCDE)	次年度の主な課題
農業高校 グローカル アグリハイスクール宣言 ○○○○○ 地地地地グ 域域域域ロ 防交環社ー 災流境会カ をのを・ル 推拠守産教 進点り業育 すと創にで るな造寄人 学るす与材 校学るを 校学る育 校学てる 校	1	生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育	ｱｸﾞﾘﾊｲｽﾀｰ顕彰、進路実現、高大連携、ﾌｨｰﾙﾄﾞ外学習、STEM教育 ｲﾝｸﾙｰｼﾌﾞ教育	全学科	全職員の研究テーマを明確にし、生徒のプロジェクト学習に繋げると共に研究成果を評価し合う場を設定する	年間を通して農業・家庭科の全職員が研究テーマを定め生徒学習の中でプロジェクト学習の向上と地域貢献を目的にPDCAサイクルに則った研究を行っていく	4.15	B	研究内容や方向性について評価し合ったことを基に精査していく。また、農業科目と家庭科目の効果的な連携について検討する。
				園芸技術科・動植物活用科	九州大学と連携し大学の技術や教養を生かした授業を構築する	年間を通して、九州大学と連携し実習におけるセンシングシステムを取り入れた生徒学習に取り組み、科学的なデータと生産管理を結びつけた学習活動を行う	4.15	C	データの読み取り方や生育と関連付けについて思考する時間と発表の場を多く確保する。
	2	世界と日本をつなぐグローカル教育	グローカル教育、国際交流	全学科	生徒主体で留学生を対象とした体験教室を実施し、異文化交流とグローカル教育に繋げる	年一回、生徒主体で行う学科の特徴を生かした講座を九州大学留学生を対象に実施し異文化交流やグローカル教育を行う	4.10	E	留学生・専属機関との連携を強化し、講座の日程調整を早期に行う。
	3	地域農業の生産を支える教育	生物生産、特産物、GAP、経営	全学科	糸島原産である特産物の普及活動に取り組む	年間を通して、地域のイベントや小・中学生を対象に糸島原産芥屋かぶやはるかの普及活動を行う	4.9.11.12.15	B	小学校等との交流を通じた継承活動を行うとともに、特産物の付加価値を向上させるための商品開発研究を続ける。
				全学科	九州大学と連携し、根こぶ病被害の抑制に取り組む	年間を通して、学科をまたいだ協同チームと九州大学との連携により根こぶ病の撲滅に向けた研究・啓発活動を行う	4.9.11.12.15	C	研究を継続し抑制の効果を科学的根拠を持って立証できるようにする。発病もしているので啓発活動も続ける。
				生活科学科	糸島産の農産物を活用した加工品を普及させる	年間を通して糸島の生産物の特徴・特性を生かした加工品やレシピの開発を行い、生産物の価値付けや消費拡大に繋げる	4.9.11.12.15	A	継続した商品開発とマーケティングに取り組むために検証時間の確保と施設の改善を進める。
	4	地域の農業関連産業や６次産業化に寄与する教育	地域貢献、６次産業化、食農教育、経営、HACCP	食品科学科	ジビエを活用した商品開発と啓発活動によりジビエ肉の消費拡大を目指す	年間を通して食品加工会社と連携し、ジビエ肉の有効活用を目的とした加工・商品開発を行う	4.9.12.15	B	ジビエを活用した商品開発を続け、各種イベント等で製造販売を通じてジビエの有効活用の可能性を広げる。
				食品科学科	地域資源を活用した商品開発から地域貢献に繋げる	年間を通して地域資源である農産物を使った商品開発を行い、地元企業と連携しながら消費拡大に取り組み地域貢献を目指す。	4.9.12.14	C	地域資源を活用した商品開発を続け、各種イベント等で製造販売を通じて知名度向上や資源を活用することで地域貢献を目指す。
	5	地域環境を守り、創造する教育	環境創造、国土保全、循環型農業、循環型社会	園芸技術科	花を活用した地域美化活動を行い住みやすい安心な町を構築する	年間を通して、市・地域と連携して地域道路沿いや駅構内に花プランターを設置し、地域美化活動によるゴミや落書きの減少を目指す	3.11.12.15	A	花の栽培を中心に地域コミュニティーの輪の拡大を行い安全・安心できるまちづくりを目指す。
				園芸技術科・動植物活用科	環境に配慮した農業生産を行う	年間を通して、福岡市動物園や下水処理企業と連携した堆肥づくりを行い、堆肥の利用による循環型農業を実施する	3.12.15	B	関連企業の拡大と飼料の見直しを行い、循環型農業の推進と定着を図る。
				動植物活用科	ワンヘルス理念の定着とワンヘルスに基づいた授業構成を確立する	年間を通して、グリーンライフの授業で人・動物・環境の健全性をテーマとした生徒の協議・演習を行いワンヘルスの実現に向けて取り組む	3.11	B	生徒や地域になじみがある教材を用いて生徒の興味・関心と思考する力を促す。
	6	地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育	地域資源活用、特産物、地域交流、食農教育	動植物活用科	放置竹林の活用方法を考案し検証していく	年間を通して糸島市の放置竹林の活用について研究活動を行い土壌改良剤、発根促進、竹灯籠など利用と価値付けについて報告する	7.9.11.12.15	C	粉末化するための効率的な粉砕技術を確立し、土壌改良剤やその他の活用に向けた研究を深めていく。
				動植物活用科	苔を有効利用した新商品を研究・開発し地域資源活用に繋げる	年間を通して地域の苔の有効活用について研究・調査を行いテラリウム、消臭剤、食用等への資源活用・商品開発を行う	9.11.12.15	B	苔の活用とワンヘルス教育の繋がりを明確にし、付加価値を高めた商品開発にする。
				園芸技術科	伝統工芸の伝承と稲作副産物（稲わら）の活用を行う	生産したイネを活用し稲わら細工による資源の利用と伝統工芸の継承活動を地域に向けて発表する	11.12	A	企業との連携をより強化し、生徒主体で取り組む伝統工芸の継承活動とする。
	7	Society5.0の時代に応じた教育	スマート農業、ICTを用いた学習	園芸技術科・動植物活用科	センシングシステムを活用した農業授業を構築する	年間を通して野菜栽培においてセンシングシステムを活用し、生産物の品質向上やリアルタイムのデータを基にした栽培について取り組む	4.12.15	C	センサシステムのデータと圃場環境の整合性がとれるよう、考察の時間を確保し整理していく。
	8	地域防災を推進する教育	地域防災、多面的機能	動植物活用科	糸島災害ハザードマップを活用た学習活動に取り組む	年間を通して、糸島災害ハザードマップを活用た授業を行い、災害を想定した自己防衛の構想と資源活用による防災・減災の方法を確立する	11.13	B	放置竹林・棚田と土砂災害の関連から防災・減災の教育へと繋げる。
				生活科学科	災害時や緊急時の応急手当の技術を習得する	年に一回、糸島消防署から講師を招き生徒に向けた救急救命手当の実施と資格取得に向けた学習会を開催する	11	A	他学科との連携を図り救急救命の発展・充実を図っていく。

※本プランは全国農業高等学校長協会「第４次アクションプラン」の規定により、各学校ホームページにて公表、年度末に福岡県教育委員会に報告します。また、福岡県農業教育研究大会誌にも毎年掲載(情報共有)します。

★作成・提出の流れ

①各学科は「行動計画１～８」のうち必ず１つ以上「本年度重点取組」「具体的方策」を記載する。②毎年度始めに「本年度重点取組」「具体的方策」を各学科全職員、次に農務部全職員で協議して作成し、４月３０日までに校長会第１研究委員会事務担当者に提出及び各校のＨＰに掲載する。③毎年度末に「評価」「次年度の主な課題」を各学科全職員、次に農務部全職員で協議して作成し、２月１０日までに校長会第１研究委員会事務担当者に提出及び各校のＨＰに掲載する。④令和８年１０月から本取組についての検証を行い総括する。

★「評価ＡＢＣＤＥ」の基準：Ａ９０～１００%の成果を得られた　Ｂ７０～８９%の成果を得られた　Ｃ４０～６９%の成果を得られた　Ｄ１０～３９%の成果を得られた　Ｅ０～９%の成果を得られた